文宣王略傳

特1000
4
帙入

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

特1000
4

国立国会図書館　　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

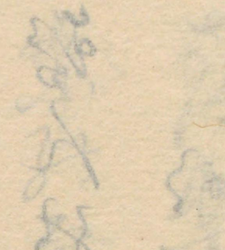
好之里好之孔子家語之矣之文
矣矣之矣之矣之

国立国会図書館　　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

大訓齋

長龍



文宣王略傳

小栗長龍平守道編輯

系圖

殷湯王

太丁　外丙　仲壬　太甲

太丁　沃丁　太庚　小甲　雍己　太戊

仲丁　外壬　河亶甲　祖乙　祖辛

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

沃甲
祖丁
南庚
陽甲
盤庚
小辛
小乙
武丁
祖庚

祖甲
廩辛
庚丁
武乙
太丁
帝乙
微子啓
紂王

微子啓 帝乙之元子名啓微國名子爵始微生時母猶為妾立又為妃生紂故微子為紂庶兄也以幾內諸侯入為王卿士後封于宋

微仲 微子啓之弟名衍嗣微子後故号微仲二微更為宋公以古官為称

宋公稽

丁公申

繆公共

襄公熙

弗父何 弗父何字何名

厲公方祀 世為宋卿

宋父周 宋父周字周名

世子勝

孔父嘉 孔父字嘉名也五世親尽乃別為公族故後以孔為氏焉一曰孔父生時所賜号也故子孫遂為氏

子木金父

睾夷

防叔 避華氏之乱奔於魯遂住

伯夏

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

叔梁紇 叔梁ハ字紇ハ名為魯昌平鄒邑宰
孟皮
仲尼 名丘字仲尼
伯魚 伯魚ハ字名鯉
子思 子思ハ字名伋

○大成至聖文宣王ハ則チ大聖人孔子ノ諡號ナリ
其先祖ハ殷ノ帝子ニシテ天子帝乙ノ元子微子啓ナリ
ソノ仁徳備ワリシヲ以テ周ノ武王ノ時ニ及ビ
殷ノ紂王ノ無道ヲ誅シ紂ヲ滅ボシテ天下ヲ有チ
給フ天子ノ位ヲ即チ殷ノ紂王ノ二ノ庶子ヲ封ジテ
庶兄 ハ庶服ノ義庶ハ子ノ同ジカラザルヲ謂フ
子ノ祿父ニ繼ガシメ諸侯ヨリ抜テ天
子ノ卿士ニ官ジ給フ殷ノ紂王ハ力能ク強ク
鐵ヲ索ケ引伸シ智ヲ以テ賢ヲ壓シテ誰モ諫ル者ナク
用ノ人ハ姦佞大頽靡ニシテ極メテ暴逆非道ニシテ萬民

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4
ガラス使用

淦炭の苦戦を以て周武王是を戒見給ず止事を終り
て遥に大事を慶し討王紂亡て其子武庚を朝歌に
而も取立く殷湯王の祀を奉せし兎殷流の孫の絶ぬ
事を以て武王を聖人の
乃苦みを救ひ給ふ討王紂撃るに殷を聖人湯王の孫
殺給ふ訳討ちのみ也紂を
不殺一ヶ年を経て武王崩じ成王天子の位
政事ぬり周公の等小管叔蔡叔霍叔と三人を
しの紂王の子武庚と心を合
内心天子の位を望む成王を
討ち給ふ故成王の為に
聖人ありて下ゟ為に忠信
殺ふ成王の疑ひを覚り遥に
かく周公に命じて四人
家を滅し殷の子孫
一番に従く周を
其弟仲思名ある
督を嗣ぎ宋公稽と

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

住居を河南の子姪に譲り、叔梁紇と顔氏の三人で暮らした。

叔梁紇は、もと施氏の女を妻とし、九人の娘を生んだが、男子がなかった。妾腹の子に孟皮という男子があったが、病弱であった。そこで、婚姻を顔氏に求めた。顔氏には三人の女があり、末の女が徴在といい、年十七歳であった。顔氏三人ともが、叔梁紇が大夫の家柄であり、その父祖が聖王の苗裔であり、今その人身長十尺、武力絶倫であり、且つ長老であることを聞いており、また、その人となりを厳しく慎み深いことを知っていたので、二人ともこの縁談を喜んだ。

ただ、徴在だけは、年の差を気にして、

「どうして二人の娘さんが、あの老人のところへ嫁ぐのでしょうか。」

と言った。

顔氏の三人の娘は、叔梁紇の家に嫁いだ。

叔梁紇は、顔氏の三人の娘に、

「誰か私のために子を産んでくれる者はいないか。」

と言った。

徴在は、

「私が参ります。」

と言った。

叔梁紇は、

「それでは、お前が行きなさい。」

と言った。

徴在は、

「私は、あなたの子を産むことを願っているのではありません。ただ、あなたの子を産むことを願っているのです

妻ふるやみそ以時姉女二人を黙然として對すまま
子ふ徽在進で文王の御ふ流そ
若顔氏仗で回京能ふ如ふ嫁なを迎ふ
徽在と妻以徽在既ふ従ふ廟見を聖人の法。婚禮の其
夫室ふ若妻をふ連て先祖の廟前以ふ先祖の霊神
に告ふ従是妻ふ子孫永続の
大なるを以ふ徽在熟考以夫
ふ於ふ事以憚ふものふ私ふ尼ふ計神ふ祈ふ
ふ文利益ありやふ迷ふ懐姙ふ
甚ふ異相ありふ尋ふ飛び御頭の形ふ四小角ふ
くして尾ふの頂ふ如ふ形ふ尼丘
山ふ似ふ彼ふの符合ふ因ふ
附ふ
二十二年庚戌ふ歳十月庚子ふ日魯ふ昌平鄒ふ
陬邑ふ生ふ此時天ふ慶雲舞下ふ室内ふ
異香薫じ麒麟庭ふ来ふ泡沫ふ吐ふ裏周ふ
生れふ素王（素王ふ王位ふ昇らされども王ふのめ徳のそなわる成ふ）ふ
孔子三歳ふふ父陬ふ

孔子は年九歳なる宋の幷官氏の娘を娶りて一年ありて
男子孤生まる曽君昭公より鯉魚二尾
賜はりしかば孔子大に悦びその
家榮誉やがてその君恩の厚きを拜しまた
名を鯉字を伯魚と附
○孔子は天性の聖人なれば幼稚より他の児童
に異なり常に戯れ遊びを好まず組豆を陳ねて祭祀の
事を備る道具を以て揖讓し神を敬ふの禮容
ありしかば郷党の人皆感服せり
○齊の大史子與魯に来て孔子道徳
のほまれを聞き孔子に見えんことを願ふ孔子
これを許す大史帰りて
藏米六斛を送り来る
依怙贔屓なく平等なる料量をもつて
服せり（北狄戎国の地にて私の名付けたるなり）又司職吏として神に
畜役を成就したるの者は高く進めて牛羊となし肥大
ならざる者は退けて豚犬となす是を澤虞と
孔子の施政なり
ものなりけり

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4
ガラス使用

そいでも而猶之得ざるもの久しきに
ちびん今日あ新之得ざる春山の高しさす所淵海の大水ことに
まるるとを知ざる事悟れ夫子ふ明王不遇なるに道徳民ふ
かぶくびく垂賞ふく後世ふ胎ちむとすと雖も退れ
ま南宮敬叔ふ謁ふく曰今孔子ふ先聖湯王の嗣にて
再又何ういふ事世く徳讓有ふく天授祚ふる所ふ成湯
ふ武徳ふ於て天下に王ふる所ふ文徳ふ
里殷宗以下まびびく孔子ふ哀周ふ末ふ先王ふ典籍錯
乱ふ紀ふく而ふ而家の遺記ふ論ふ其義ふ考

考尋ふ相述ふく文武ふ政憲ふ章ふ記ふ明ふ書ふ載ふ述ふ禮ふ
先樂ふ理ふ春秋ふ制作ふ刪ふ定ふ易ふ
贊ふ繫辞ふ而ふ天人ふ際ふ明ふ詳ふ而ふ後ふ
配ふ垂ふく法ふ於ふ後ふ也文徳ふ著ふ
所ふの弟子ふ乗傾ふ之ふ若ふ或ふ千ふ人ふ有ふ或ふ天ふ将ふ素ふ
王ふ之ふ興ふ而ふ欲ふ為ふる夫何ぞ其ふ
少ふ孟子ふ而ふ夫物而大ふ敬ふ新ふく殆ふ
治ふ而ふ継世ふ統ふ起ふ失ふ興ふ未ふ而ふ文ふ
道ふ之ふ将ふ小ふ王ふ之ふ春ふ秋ふ而ふ天ふ祚ふ之ふ辞ふ
為ふ於ふ施ふ也ふす天ふ祚ふ之ふ辞ふ
為ふ於ふ施ふ也ふす未ふ然ふ之ふ貢ふ之ふ

国立国会図書館　　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

城守を置き孔夫子に告夫子
也孔子之政治の滞ることを聞き
天何ぞ默さん

○孔夫子南宮敬叔に御せらるる
知事 敬叔は魯桓公の子孟孫氏
の菩薩屬郷曲仁里の人也氏を孟名は
禮樂を原し通し道德の歸に明かにして
小周公徒もとあるなり敬叔對て
に乗じて白臣先君の命を受
子魯聖人也後裔中ごろ宋に滅せり

孔子は先祖宋の
魯に奔りし故に云

其旨一命而僂再命而傴三
命而俯傴偃ふせる也俯ハ傴ともに
故に鼎に於是粥於是以餬
餬ハ糜之薄きもの
其口鼎ハ鬲之藥之粥の薄きもの
鬲支鉶ハ三足
侯なるものあり乾臧武仲なり聖人の後
若世ゝ常らば 幷文何ハ殷湯の後なれば
みて禮を好む其孔丘ハ
以是我師ともまた今孔子周を適く先王の遺制を觀に禮

始免國を有て廣く採く 幷文何ハ魯公の世子也
宣 戴公武公に補佐あり三命して
茲益恭 一命ありて士となり
卿となる 再命して大夫となり
故に其鼎の銘に曰一命而僂再命而傴三
命而俯傴偃ふせる也俯ハ傴ともに茶く
故に鬲に於是粥於是以餬其口鬲ハ鼎之藥之粥の薄きもの
侯なるものあり乾臧武仲なり聖人の後
其恭倹なるかのごとし臧孫紇
若世ゝ常らば 幷文何ハ殷湯の後なれば
みて禮を好む其孔丘ハ
以是我師ともまた今孔子周を適く先王の遺制を觀に禮

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4
ガラス使用

樂を極ふかを考んとす斯大業也君臣ともに樂
ざる臣請共に住んハ公則諸侯の
政興ん整子を待御せしむ孔夫子即ち敬敖と奏す
俱ふ用に至事のみして禮政を先卿に問樂を養弘を訪
郊社の所を歴明堂の別を考へ廟朝の度を案
さるをおく唱徒そこのみ吾今周公を聖と周公
王室を輔るを知ふ則周を去のみ又孔子を送
て吾周富貴なる者多人を送て財を散し仁者を
人に送るを言を知ふ吾富貴を解を出ると著

○仁者の辭を窮免り清子を送に言を凡當
今を聰明深智にして死迫なそのかみで人に議す
陳者也人をそこに又ハ徴ふる博辯周達にして
その人に悪を覺くるのみ己に有しく人をの好
所ありて吉のみ己に悪ふ人をの所ありて吉のみ
用ふるの所を有ふるの所を知ふるの長前己の有ふるの所を知ふるの

○孔夫子明堂の観を四門の墉小堯舜の容を桀紂の
千人形り

自ら文田の述
言敖ふれハ利行用ふれハ利退く
身を保ち行を全ふべし言きふ
夏の桀王
殷の紂王

ガラス使用

豪あり而〻各善意の状を興慶の誠より又周公成王を相るを抱き南面し諸侯朝せしめ負扆の圖あり孔夫子徘徊〻〻是を望みみび徒者に仰せらるゝ是周の盛なるを歎んで大明鏡を形とるを思ふ故なり今我如き人まで務〻〻として其安からざるを思ふ故なり急急兀兀是勝まる御走り異なるを知らず前人に求んと欲するの故なり

○孔夫子周を観て遂に大祖后稷の廟に入るに小廟堂右階

の前に金人有り其口を緘ぐ其背に銘あり曰

古之愼言人也戒之哉。無多言多言多敗。無多事多事多患安樂必戒無行所悔勿謂何傷其禍將長勿謂何害其禍將大勿謂不聞神將伺人焰焰不滅炎炎若何涓涓不壅終為江河綿綿不絶或成網羅毫末不扎將尋斧柯誠能愼之福之根也口是何傷禍之門也強梁者不得其死好勝者必遇其敵盜憎主人民怨其上君子知天下之不可上也故下之知衆人之不可先

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

也故後之溫恭慎德使人慕之執雌持下人莫
踰之人皆趨彼我獨守此人皆惑之我獨不從
內藏我智不示人技我雖尊高人弗我害誰能
於此江海雖左長於百川以其卑也天道無親
而能下人戒之哉
孔夫子勤文史讀易韋編三絕門弟子仰而尊
弘識而好言窮天地中和情性信好詩云戰
兢如臨深履薄身行此五者而已豈日足哉
行之此五者豈日足哉

○魯定公の九年孔子年五十一歳初て仕へて中都の宰と
成る生民以來死を送るに其の宜を制し強弱任を異にし男女
別を行ひ路に遺ものを拾はず器物飾偽を作さず
て新の制を為す四寸の棺五寸の槨を以て葬り墳
墓を作て封せず高さ五尺積あがれば脩せず
松柏を植ず行の事一年にして西方諸侯之を
取て自國の法則とせり定公又
因堂より夫子の五土の性を別ち五土の性とは山林川沢
丘陵墳衍五原濕

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4
ガラス使用

物各其生而不害其性而治之可宜大司寇之職
法而設刑法以用之先法而用之後法而罰之
○夫子相事攝行朝政七日而誅少正卯
之誅之而不疑之而不惑之而不變朝以正卯之事三
日而貢進于回夫子而魯之國人也今夫子攝而
行之始于誅之而不疑之或以失之而不變之者五
而況于天下乎大惡有五而竊盜不與焉一曰心達而險二曰行辟而堅三曰
言偽而辯四曰記醜而博五曰順非而澤此

（非義）

十二

五者有一人於心皆不免君子誅之而況于
聚徒成黨而其居處足以動衆其言談足以飾
非其行足以獨立其辯足以移衆其強禦足以
反是而不為君子所誅者也
○魯定公十年夏定公與齊侯會于夾
谷孔子相焉事攝相而孔子曰臣聞有文備者必有武備有事
必有文備古之諸侯國之強

ガラス使用

司馬
武宮や定公其喜ぶ後ひ会する所ぶる壇侍也仰ぶ土階
三等なり揖譲して昇り献酬洗爵事を齊人莱人挙
を兵とゆく仗を執鼓譟して進みんとす士是ぶ兵せよ吾両君好会す
に退く士又是ぶ兵せよ吾両君好会す某夷ハ有国の東夷なり俗
の禽表の俗教て兵を以てせ通弁を通弁なるものの名称
齊君諸侯を会す汝不為ぶ夷の華
ぶ乱を以て侯を盟ひ千ざす兵を好よ偏ら神よ於く不祥
ざる也徳ぶ於て人ぶ失礼ざす是何
を為ん斉君其ぶ思ざらん也齊侯心中ぶ色ぶ怍癩毛禄ざく

是ぶ於て退く顧ぶて齊又宮中ぶ楽を奏ぜ俳優侏儒前
ぶ戯る孔子躯進ぶ歩階ぶ陞ぼ三等ぶ高ざ
匹夫諸侯ぶ労ぶる者罪ぶ死ぶる者ぶ加ぶ刑
戮ぶ加ぶよ命ぶ於く侏儒を斬ぶ首を處ぶ異ざ齊侯
懼ぢ大ぶ慙ぢ是ぶ於り齊人盟ぶ仮く書ぶ加載ぶて曰く
齊師境ぶ出る兵車三百乗ぶ及ぶ我ぶ従ぶ此盟の
如ぶ違ぶ孔子数ぶ曰く我汶陽の田ぶ及ぶんを嘉
命ぶ供ざるあかぢめ享礼を設んとを
孔子望丘據ぶて向齊ざ故事
石の發文也

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

既城くに又ありと雖も是れ亀
門を出で嘉栗の野に会ずる亦是
亳なり丈不具うるめよ是れ粗稗
らる粗は穀の麤なるもの稗は穀の細なるもの禮を亡ひ
夫享は徳を昭かにする也況や昭
享を果すに於ては齊侯國に帰りて其群臣を責て曰魯を君子
の道強ひて其れ備く而して汝独り夫れのみ
人にあらず罪を得ざらんと言ふ
陰の四邑及び汶陽の田を侵し取れの郓讙龜

十五

○孔子定公に言て曰家は甲兵を藏せず卿大夫は家ごと
の城あり高さ二丈長一丈を堵と
いふ三堵を雉と
古の制也今三家よく制を過ぎ請ふ
堵ごとに損ぜん季氏の宰臣仲由に命じて三都を墮ち
三都は三家の邑也孟孫氏の食邑は成
叔孫氏の食邑は郈季孫氏の食邑は費
叔孫は叔孫輒也叔
孫氏の庶子なり費邑を案ず公山
弗擾小国く費人を率ゐ魯を襲ふ
孔子公を扶く季孫叔孫孟孫と共に費氏の宮に入武子
の臺に登る費人攻て臺側に及ぶ孔子申句須
樂頑に命じ士衆を勒して下りて
人北に遁る遂に三都の城を墮ち公室弱く私家弱く

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

君也尊之臣也卑之政化大行矣

○魯人販羊有沈猶氏常朝飲其羊而多飲水沈猶氏之邻人亦然又公慎氏之妻淫亂又魯之六畜皆生馬牛羊豕犬鶏彘其人皆修治之愉有餘加之以男女之信之富○孔夫子魯司寇之政也設之以文教而糾之以武刑慎溃氏之妻知之慎溃氏之婦也慎溃氏聞之而逐其妻慎溃氏之妻嫁之而不改其行慎溃氏又聞之而反其妻慎溃氏之妻曰子逐我我嫁而不改行子反我我又何面目以入慎溃氏之門乎慎溃氏之妻遂自殺慎溃氏之妻知死之不辱慎溃氏之妻可謂貞烈矣

家人有之

○孔夫子魯司寇之政也設之以文教而糾之以武刑有夫子四方之賓客不敢入魯之境有夫子魯人不敢入諸侯之國有夫子魯人之適諸侯之國者不敢與人之妻妾交言有夫子魯人之適諸侯之國者不敢與人之妻妾交言有夫子魯人之適諸侯之國者不敢與人之妻妾交言

不幸戎我王三軍大小敗績
我刑すべからざるを上教の行はるゝ所以
なるを念誦を授けて誦せしめ給ふ
ゐる冥報を責ふ虐せる之を三たび
聞きて試みに刑罰を用ひ今其の
あるを以て刑殺を加へず其刑殺
ざるの又淫を禁じ制度を設け
せざるや夫三尺の泓も空車の
峻きを以てせば若何ぞや
陵遷ありと雖も百代の山を重載して
陵遷ありと雖も今世俗の後遷なる
法何ぞ民觀瞻するに
○魯哀公顔回小子
對へ善なることを

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

侯六馬の駈せ
定公ま而免ありて左右者ハ匐ふ
を誣とするを顔回ハ前を退歩すること三日めに牧来
て牧ハ侯を救ふ故ニ東野畢の馬侯ハ両驂両服を曳て廐ニ入るを
許ふ公驚ひのぐ起て観ハ吾子に問ふ東野畢の
先駈を公曰前日寡人寡人ハ諸侯自ら
善御ニて善ハ故ニ善ハ馬侯ハ
吾子笑ひ而ハ遠ハ又ハ故ニ顔回ハ
苟帝舜ハ民を役ふ行ふ造父ハ
其子ニ而ハ民ハ力を窮ひ生ハ

大

民ハ造父ハ侯馬を今ハ
轡銜ハ御體ハ歩驟
ハ遠きに到ハる力を
城ハやまず臣ハ是を侯ハ
めハ其ハ大ハ頼ハみ
進ハ者回臣ハ窮ハ
ハ歌窮ハ擢ハ人窮ハ
侯ハ有ハ及ハまず
ハあひ公悦ひのぐ
ハ子ハ吾ハ對ハ
ハのハ此類ハ

○夫子潜の國に在しゝ時、顔回早晨より興ゐ、顔回例に侍るとゝもに哭する者あり。聲を哀しみ悲やむ。ゝ何の為に哭するや。顔回對て曰、此哭聲、但死者ありて哀むがごとし。夫子の仰せに、死して生前の冀ふ所なき者なり。夫子の仰せの對に、死して生前の冀ふ所なき者なり。夫子の仰せの對に、死して生前の冀ふ所なき者なり。夫子の仰せの對に

○又聖人に小人の志ありて君子と同じくして行ふ事
なんぢ有るべからざるや曰ふ君子は義を以て
以て之を行ふ故に君子の義を行ふ事あり
○相疾むことあれども退いて彼を仁地に為んことを
欲して小人を悪むことなし我れ
其事を務めて中ることを願ふ而已
○叔孫武叔を曽子に毀る曽子此人多く人を過ち誤り
顔回謂て曰吾夫子を
ずして而已美と
○子路初て聖人に見ゆるに聖人に法行を好楽すと
問ひたり長剣を好んで対へ
徳海の能ある如くにも
堂上に昇ることを

ず君子を己れ
○顔回子貢に謂て曰吾夫子
ずして礼を人に望み身徳
乱なりと夫子のごとくに思ひ
○子路初て聖人に見ゆるに聖人に法行を好楽すと
問ひたり長剣を好んで対へ
徳海の能ある如くにも
堂上に昇ることを

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4
ガラス使用

以聖人又夫人居而諫臣之正しきを失ふ士に
叡智なきを駑馬牡馬の策なきを捨てら
ハ線に及ぜず未駿足を見ばず
学識ありて重用せる親の順なるぎもやに仁を毀つ士
むべき刑ふ迫く君子踏まざる路
又對く南山の毋あり樵ぜしこと箭
に用ふ肇華と違すことを
一の聖人計何ぞふ拙くくる
残礪な其入こと又深のごく

二

しを回教を受んと思ふ聖人は修ふ勉ふ
子路は純ふ朴ふみて聖人を敬
而ふ猶ふ事我ふ言我ふ
而ふ頂ふん之聖人曰く強ふ
忠ふも違ふ親ふ信ふ
禮ふ此五ふのふを怠ふ
奉ぜん

○魯定公廿四年孔夫子御年五十六歳大司寇之官ふ
相の事政摂行ふ溝國齊人ふ違政阿ふ孔ふハ聖人

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

なり今魯國の相と成て政事を執行ひ國民悉く帰服し
鄰國も亦盛大に治り如此魯公の霸業なるべし然ども
齊は國大なりと雖も魯は幕下に屬せんこと甚遺憾なり如
何其政を改めらるゝ迄好女子八十人を選て衣せ文
飾をなさしめ容儀も舞曲も皆文馬四十三疋魯君
に遺りて如此樂を淫せ文馬を魯の城南高門の外に列
ねて大夫季桓子微服にて往て是を見ること再三にて
お帰を貰ひ受んと思ひ魯君に申さく國道修觀
て是迄ならざる程のにしても政を怠り予路聖人の
出國と云の止ざるを聖人曰ふ魯國今且郊の祭
もそろそろ若祭肉も頒ず諸大夫ある迄も
常政慶せざる之甚敷歩るゝと
実も君臣共に婦言に惑ひ國政を怠り又祭の胙
俎をも残さず旨よく聖人も見切
都迄行給ひも郊外迄送ると
曰夫子罷あそばせと聖人の仰せ吾歌を唄ふ
やう仰ぎ歌ふ而可なるに曰彼婦人之口可
以出走彼婦人之謁可以死敗優哉游哉聊以

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

卒歳

○聖人のもの君子の己を能するを
小人を己をもてさるべきを
すなわち君子を人の才を長じ
○孔蔵孔子之兄子 己を行うべき道を用
津々としてやまず親て信ずる
ちをもって楽
ざるべからず其己の能すること
人を物の知己の能すること
給目あいびく己其長遠ることを
如惟智者にあり

○聖人曰く人小五倫あり庸人あり
聖人あり此五倫の古今常ずまた
心を絶ち悩むの処をあきらめ
擇みて其身に託せば力行を自ら
開して務る所を以て物を従わ
志を先にして庸人也士人以心宅
人を物の知己の能すること
給目あいびく己其長遠ることを
如惟智者にあり

○聖人曰く人小五倫あり庸人あり
聖人あり此五倫の古今常ずまた
心を絶ち悩むの処をあきらめ
擇みて其身に託せば力行を自ら
開して務る所を以て物を従わ
志を先にして庸人也士人以心宅

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

道術のおこなわるるを以て楽しみとなし
て能くこれを修むる者は富貴ありと雖
も必ず知ることを言うなり
うたがひなきを以て務めとなし
知ることを言うなり
小松ふがみなり曰く貴富も
ふるべき士人也所謂君子
心を以て仁義に仕え面も
に通じ篤行道徳信を自
恩沢洽くして将に誠ならんとす
かざるの者あり所謂陰
縄中に言い天下に
也化せられ知ること
財あり強をば幼天下
者徳を天地と合わ
我家の廃れの月光
を成明の日を並び化行い神の
祝者其強とも此を聖人と
三

ガラス使用

○魯哀公孔子に問ふ曰善哉問ひ難し（戯しひく惜哉やその時其ことを知ふ刃子のやうなる人あらそうと）孔子曰く君子の為政や公曰二乗あれば何ぞ決ふまであそ親く貢二乗ふるの為なり

や孔子曰貢忠道を兼行ふの為也哀公懐る問ふて後曾て知のまう君子の忠道我ふ如くふるこそ孔子曰君子の忠道我ふ如くふるもまた善道如何ぞ

哀公孔子に問曰國家を存亡禍福信ふ天命あるか存亡禍福皆己ふ招ふるこそ天災地妖ふ加ふる事能ふ公曰吾子ふ云ふ如くなれば吾何ぞ

肯殷王帝辛ふ世ふ崔ふ城闕ふ巣ひふ大鳥ふ集ふ是我ふ日凡ふ物ふ大ふ生ふ國家必王ふ名益ふ是我ふ是ふ於ふ帝嚳ふ徳ふ介ふ（崔の字ふ於ふて由と訓ふ）國政ふ

修ふ伯兪ふ元冥極ふる一朝ふ臣叛ふ外寇ふ加ふるふ國殆ふ亡ぶる是ふ由ふ己ふる天時ふ違ふ諺ふ云ふ禍ふるふ又福ふるふ己ふる又貢先世殷王大戊ふ時道缺法圮ふて天蘖

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

天慶ハ禍ノ[illegible]ト云
[illegible]ヲ[illegible]ト云モノケレトモ
拱也拱ハ抱ナリ 是ヨリ四年桑穀ハ朝ニ生ジ夕ニ大ヒニ
[illegible]ヲ七日ニシテ大ヒヲ
[illegible]ヲ朝庭ニ生ズヘシ
[illegible]ヲ恐懼シ 桑穀ハ桑ノ榖也 朝生夕大ヒ也
[illegible]ヲ行ヒ
[illegible]ヲ太戊大ヒニ
脩メ先王ノ政ヲ思ヒ養民ノ道ヲ明ラカニス三年ニシテ遠方
義ヲ慕ヒ重譯シテ至ル者十有六國 重譯ハ遠方ヨリ國々ヲ越テ来ル故ニ
其度毎ニ通弁官ノカカルヲ云ナリ
此別ヲ已テ天時ヲ違[illegible]禍ヲ降ス故ニ天災
地妖人妖儆シ且ツ也寤夢ニ
災妖ハ善ヲ勉ヒ脩ヲ寤ヲハ善行ヲ勉テ徳ヲ
至治ノ極也唯用王ナル違ヒ

○[illegible]公問曰智者壽ク仁者壽キトイヘリ孔子對テ曰人ニ死
ヲシテ其命ヲ死ヒシムル事ヲ取也夫寢處時ナク飲食
節ナク逸樂度ヲ過ル者ハ疾病ヲ生ジ之ヲ殺ス下位
ニアリテ上ヲ犯シ君ヲ弑シ干ヲ[illegible]ヲ好ミ嗜欲厭ク事ヲ
求テ止ル所ヲ知ラサル者刑ニ罹リ是ヲ以強ヲ恃テ念怒類ヲ
以強ヲ恃テ念怒類ヲ忘ズ動ク力ヲ量ラザル兵共
有ル連ネ報ズル事ニ命ヲ殞ス人自ラ是
ヲ取ル者賢士仁人將ニ身ニ節アリ動義ヲ
ク喜怒時ヲ[illegible]テ其性ヲ害スル事ヲ寿ヲ得

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

○大聖孔子嵩山ニ北遊シ給フノ時子路子貢顔淵側ニ侍ス大聖四望シテ嘆ジテ曰ク斯ノ如キ一二子各ノ志ス所ヲ言ハシメヨ子路進ミ曰ク願クハ白羽ノ旗ヲ執リ鐘鼓ノ音ヲ天ニ震ヒ旗旌日ヲ蔽ヒ下地ニ蠕ヒ由一隊ノ勇ヲ率テ敵ヲ擒ニシ千里ニ名ヲ顕ハシ本藏ヲ執テ唯命ヲ聴ク時ニ子貢ノ者ヲ顧ミ我ヲ従ヘ大聖孔子稱シテ曰ク勇ナル哉子貢後進ミ曰ク願ハ齊楚ノ両国相望ミ塵埃相接シ刃ヲ交ヘ合戦セシメ両国ノ患ヲ排シ大聖孔子稱シテ曰ク夫二子ノ者ハ我ヲ従ヘ顔回退キ対ヘテ曰ク文武ノ事二子ノ者既ニ之ヲ盡セリ顔回何ヲカ言ハン大聖曰ク然ラハ則チ汝ノ志ヲ言ヘ顔回答テ曰ク願ハ文ヲ以テ友ヲ会シ武ヲ以テ仁ヲ輔ケ内ニ修メテ以テ人ヲ来シ外ニ施シテ以テ義ヲ行ヒ大聖孔子稱シテ曰ク善哉ト子路ヲ召シ曰ク汝ハ勇ヲ以テ人ニ勝ツ者ナリ子貢ハ辯ヲ以テ人ニ勝ツ者ナリ顔回ハ仁ヲ以テ人ニ勝ツ者ナリ汝ハ何ヲ以テ我ニ事ヘント欲スルヤ子路曰ク由

玆同志ノ士ヲ藏ビ竟ニ(唐ノ帝堯ノ夏禁王ノ)國ヲ共ニシテ治メシ其類ノ異ナル玆ヲ以テ回顧スルニ明王聖主ヲ得テ是ヲ輔佐(輔佐ノ臣ヲ云フ也)其五教ヲ敷(五教ハ父義母慈兄友弟恭子孝也)ヨリ甚玆ニ道ヲ以テ禮樂玆ニ溝池ヲ設ケ城郭ヲ修理セシ(軍ヲ守ルヲ云フ)劍戟ヲ鑄テ農谷ヲ耕シ牛馬ヲ原藪ニ放チ室家離曠ノ恩ヲ(乱ハ侵ス事ヲ云フ)千歳戦闘ノ患ヒヲ息メ以テ民ヲシテ城郭ヲ修理セシ溝池ヲ設ケ事ヲ務メシ玆ニ賜ヲ其辞ヲ用ヒ安ラシメシ由ヲ其勇ヲ施ヲ所以ヲ示シ大聖孔子漂然トシテ回ヲ美ナルカナ徳ヤ予路ヲ戒抗ヲ對ヲ回夫子何ヲ選ヲヤ大聖日

○聖人ヲ堂ニ昇ル岡小徳者ヲ小徳者ヲ而天暑熱強クシテ市遠ク雲ヨリ灼ヲ如ス(ヲ)ヲ而ヲ而ヲ而

○子路蒲邑の宰たり水利を脩理し其民と溝洫を脩理し民の頗苦役勞を以て怨とするものなきを以て止免せんことを請ふ孔夫子是を聞き悦ばず往て孔夫子に見えて曰由也是を以て忠を盡すを悦ばず往て孔夫子に見えて曰由也是を以て忠を盡すを以て水災あり未だ以て止免すべからず改めて溝洫を脩理し以て民饑饉の名を除き簞食壺漿を以て之を迎へしめよ然らば止免せんと是夫子の言を以て子路に教ふるなり子路曰善哉由や幸なり過ちあれば人之を知る由や幸なり過ちあれば人之を知る由や幸なり過ちあれば人之を知る由や幸なり過ちあれば人之を知る

○孔夫子衛の國より適ゐ中路にて其音を聞き哀しみ孔夫子曰丘衛者の哀ふ非ず人の死を哀しむなり異人の痛を擁し宗祐を喪ふを哀へ且夫子車より下りて追ひ問ふ曰

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

吾五吾子之ものの夫子曰子今喪のまふれて哭するを
聞くに五吾子曰吾よ三失あり晩にして学を覚る是一失也
親まで何ぞ及ばん曰三失何ぞや頴子曰吾子昔より吾
あ隠をとがの五吾子曰吾少き時学を好み天下に周偏
して遊ぶ是一失也長じて斎居して奮わず吾平生なるく友り
行う義失す臣が節遂げず是二失なり吾平生なるく友り
交ふ今皆離絶して是三失也夫樹静まらんと欲すれども風
ふかず子養まらんと欲すれども親待たず往くまゐらざるもの二
再び見べからざる者親也請ふ此より辞せん遂に水に投じ
死せり孔夫子曰小子是を識せ戒めとなすに足れり
是よりその子帰り帰ぐ親を葬ること三年墓を去ること
三年の者十有三人なりき

○子路夫子に見えて曰重ねて我有り
ては家貧しく親を養ふ能はず
二親ま事る時に及に藜藿の実を食ひ
百里の外に負ひ米を致す
従車百乗積粟萬鍾満ちて
頴ら藜藿を食ひて親の為
べうに枯魚宗祀に衝し幾何ぞ

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4
ガラス使用

る過隙のごとし　（枯魚雲汲湖に墨八千魚と雲つるでも河と雨乱の為命と陸とを約のめぐり汲ごとくうるおうごとくうるおうごとく）孔夫子曰

由や親よつるに生事ふ力を盡し喪に死事ふ思を盡す

○孔聖儒ふと曰ふこのみる蟹

二、縣水三十仞八尺を仞とふ三十仞　圜流九十里圜流ふ回流　急竈行を

能ふ竈竈を作る竈竈を作ふ竈竈を作ふ竈竈を作ふ

○楚の昭王、成の江を渡る。江中に物あり、大なること斗のごとし。赤く真の王の舟を觸る。舟人取りて王に怪を遍く群臣に問ふ。能く識る者なし。王使を魯に聘して孔夫子に問ふ。夫子曰く是所謂萍実なり。以て霸者を獲る。吉祥なり。唯霸者能く獲ん。遠く食ふべし。小大ともに宜しきなり。後還の使者魯を過ぐ。夫子何ぞ以て知るやと問ふ。夫子曰く大夫子游に問ふべし。子游鄭より得たり。鄭の洧の野にありと。子游に問ふ。子游曰く昔童謡あり。曰く楚王江を渡る萍実を得る大きさ斗のごとく赤くして円かし。これを食へば甘し。これを名づけて是れ王の應なり。吾見ずと雖も吾先君これを聞けり。是れ王

○子貢問ふ曰く死者知るありや将た知ざるや。夫子曰く吾死を知るのみ。あるいは知ざるいは知るを俟たず。吾死後に於ても知ざるを知る。子貢曰く

子貢先賜贖而後金受之孔夫子聞之曰賜汝魯國之士夫聖人之舉也能動天地化鬼神豈特損益其政而已乎且夫贖人者拜之於堂上受金者拜之於門外夫子貴之乎貴其德而賤其金也子貢以此受金則不受金則不復贖人矣

淮南子曰魯國之法魯人有贖人於諸侯者歸而受金於府子貢贖人而不受金於府孔子聞之曰賜汝失之矣自今以後魯國富者寡矣夫聖人之舉事也可以移風而易俗豈特財物哉

大聖孔子曰君子之思也不出其位是故位卑而不敢謀官小而不敢治事不在其職而不敢言言不及其事而不敢議是以君子思不出其位

孔子曰君子之事君也進思盡忠退思補過將順其美匡救其惡故上下能相親也

大戴禮曰孔子閒居曾子侍坐子曰參汝以為何如為孝乎曾子避席曰參不敢以為孝安得孝乎子曰汝知禮乎曾子曰禮以安親參聞之曰身者親之枝也敢問何如子曰汝知孝之大體而已乎曾子曰敢問孝之大體子曰大體有之參不敢與聞曾子曰敢問何謂子曰夫孝大體有三有本有尊有親其本也其尊也其親也

文宣王曾祖父之諱小紀

文宣王曾祖父之諱小紀

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

宿望の答ふる所なり宣王曰吾聞宿老の答ふる所なり盡きもせず新き中
○
を述ぶるに正しく滿つる心を覆ふ明君以至誠を求ふるを望例
ふ羞下弟子を顧みるに試ふるを注意例ふるふみを注く中
なれば例ふ正しく滿つる心を覆ふ例ふ文宣王嗚呼と歎じく
曰嗚呼夫れ面を飾ふるを覆ふるをおおむや各進ふる曰教
同端を持つふるや文宣王曰聰明睿智ふる之我
○
なれ愚とをふ加天下に被ふ是を以て力学
振ふ名を立ふ我ふ述ふ宿老の之我や逢ふ等
此の端を損ふと文芸ふ損ふる
○
文宣王東流ふ水ふ観ふるふ子貢問曰君子見所大水
必観ふるふ何ふるや文宣王曰夫水徳ふ似ふる
く流ふ物ふ興ふ自ふ倦ふるを似ふる夫水徳ふ似ふる
卑下ふ偏拘ふる更理ふ循ふ此義ふ似ふる
ふ行ふ流ふ而仞の谿ふ赴ふ懼ふる是ふ
仁似ふる量ふ乎ふる是ふ
仁似ふる是ふ以ふ綽約ふる
弱ふ似ふる柔ふ
弱ふ似ふる
志ふ似ふる
察ふる水ふ
清ふる
是ふ

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4
ガラス使用

不君子見其小而觀其
○子路大聖を御前に出されハ大聖
その何なる者かを問ハ子路対云賢者五人ハ已に知
れども仁者を人ハ已に愛せず堂を大聖曰士を謂ひ子路問
前に退くハ子貢入ハ子貢曰賢者を今
仁者を人ハ愛せず大聖曰士を謂ひ子貢出顔回入
亦問ハ事始めハ顔回対曰賢者を自ら知仁者自
愛を大聖人曰士君子とハ
○楚の莽王出猟して鳥嘯ハ
ん と請ふ王曰ハ
ん 又何を求ん 聖人見ざれ
ハ人ハ已に遺ハ
○雲南の二國田地を争て訴訟
に相決せず西伯へ
の國の境小さよ耕者ハ譲
ハ皆黄色に入を見ざれ男女路を別
ハ班白八十以上の者提挈ハ手にて物を取もたぬ者を
提挈也 其列に入ざれ士を

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4
ガラス使用

讓ひて大夫のみな〳〵大夫ハ狼の為ふ讓る農黄両國の君
○田嗇吾倘ハ小人也君子ハ頽り入べうべきを遂ふ互ふ
田地をお讓ふ退ふ共ふ自ふ
聖人曰ふ知ふ是ハ文王ハ乃大ふ
○後ハ文王ふ
○曾子曰ふ
ふ知ふ
莊。禮ふ成ふ
義ふ徳ふ

○魯人擄掠ふ
風雨ふ
腸ふ
年二十ふ
小敖ふ
御下恵ふ
恵ふ
と欲ふ

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4
ガラス使用

○哀公孔夫子小祠ひめ寡人忘れ[illegible]
[illegible]て其素[illegible]
[illegible]
夫子曰昔夏桀堯を貴きこと天子の[illegible]
其聖祖の法を忘れ其典法を壊り其世祀を廃し湯
小臣ゐ酒小[illegible]湯[illegible]伊尹論誅して
以て桀を逐ひ天下[illegible]
是其身死して[illegible]
○齊國よ一足の鳥ゐり飛ぶ公朝ゐ集ゐ下ゐ殿前よ止り

翅を[illegible]ひ跳ゐ齊侯大小怪ゐ役を[illegible]
而ゐ孔聖曰ゐ其名[illegible]高羊と[illegible]水祥也當[illegible]童兒其一
脚を屈ゐ両肩を振[illegible]て跳ゐ[illegible]
齊年鼓舞ゐ齊大ゐ[illegible]
急ゐ民小吾ゐ約ゐ湯渠ゐ[illegible]
大水ゐ[illegible]
ゐ諸國を[illegible]
水ゐ[illegible]
孔夫子弟子ゐ[illegible]
仰ぎ[illegible]

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4
ガラス使用

文王治内小家皆悦ふ子何を施ゝ是を治ゝ是を治ゝ五小兵隊の名
是を治ゝ人を治ゝ是を治ゝ對ゝ曰不齊の單父政治る父ハ子
政恤ゝ子ハ諸孤を恤みゝ喪ゝ紀を哀ゝ孔夫子曰善と
ゝゝ小節也小民附ん猶未ゝ曰不齊父ゝ事ゝ
治者三人兄ゝ事る如ゝ其父人支ゝ事ゝ
十二人ゝ孔子曰父ゝ事ゝ事ゝ三人ゝ事ゝ
兄ゝ事ゝ者五人ゝ悖ゝ友ゝ事ゝ
者十二人ゝ善政挙ゝ中節之士人附ん猶未ゝ
ゝる也曰此地の民ゝ不齊ゝ賢ゝ者五人ゝ不齊

廿九

是ゝ仕ゝ度ゝ棄皆不齊ゝ治ゝ
歌ゝ曰其夫ゝ者ゝ者ゝ
下ゝ聽ゝ務ゝ
乃宗也神明ゝ主ゝ悖ゝ
○孔夫子曰良業ゝ小菩ゝ病ゝ利ゝ忠言ハ耳ゝ逆
ゝ於ひゝ利ゝ湯武ゝ湯王武王討ハ桀王紂王唯々政ゝ亡ゝ唯ゝ
ゝく兄ゝ爭弟ゝ士ゝ爭友ゝ
たゝ君ゝ也故ゝ君ゝ臣ゝ君父ゝ

卅八

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

子六ヨ成ル之れを失ハ第己ヲ滑ス
成ル是理ヲ風ヨ起モ北ヲ
兄弟失ヲ〳〵〳〵交友ヲ中ル
○聖人仰ラル無體ノ禮ヲ敎ヲ無服ノ喪ヲ哀ヲ無
○樂ヲ歡ヲ言ヲ〳〵〳〵信動〳〵
仁夫鐘ヲ鼓ヲ怒ヲ撃ヲ武憂〳〵
志変ル者ヲ詳ヲ
金不通ヲ而ヲ況ヤ人理ヤ
○聖人罪ヲ者ヲ罪ハ綱ヲ
崔杼

罪ハ小崔ヲ取ル大崔ヲ
崔杼ヲ弑ル之ヲ問ハ大崔ヲ
従ハ汚〳〵大崔ヲ
等ヲ哀ヲ〳〵実ヲ
心ヲ〳〵ヲ禍ヲ
ヲ慮ヲ如ス
敬ヲ之ヲ仰ラル
○曽子ヲ疾ヲ
大杖ヲ
気ヲ

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

城志ど相頃めて蘇まし欣然として起ちて曰く
○參の名羅を大人小滿を大人力を用ふ參小教のごとく疾事
あるを滿を退て房小銃琴を援き弟も又管絃まを躰
なく健康なるもし孔夫子のみ必ず弥川
等子に參を乗らで内を重ねら諸く羅なる人をして
ざるやもし聲更て子の葬を督史
事ならば是我使ん己が欲ざる所を
おくまで書く倒小柱をる支
○おくまでを教をんとす
○おくまでを教をんとす

四十

○孔夫子泰山より過ぎ待大杖を逍ち逍ち
泊の死を犯さざるを葬をず今
參、又小事て身死ぬるの是
身死ぬるを又をて死ぬるを隔る其不を
ら汝天子の臣ぬ我天子
勞參をの而參をやの
本にもて甚死を卿ぬるを
○孔夫子泰山より過ぎ待大杖を逍ち逍ち放小聲史又又多ち
泊の死を犯さざるを葬をず今
參、又小事て身死ぬるの是暴怒を待殖ち而ち
身死ぬるを又をて死ぬるを隔る其不を甚ち大か
ら汝天子の臣ぬ我天子
勞參をの而參をやの
本にもて甚死を卿ぬるを
○孔夫子泰山より過ぎ啓朝ぎ癌衰よ索め葬
於一郷ぬるに琴絃ぬして回く曰先生

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

樂ぞする亦んの君何ぞや期對く曰吾樂甚多し然れ
○甚も三あり天地物を生ずる唯人を貴しとす吾既に人
ある事我治むる是一樂也男女居別ある男女尊く女卑し
故に人男を敬ひ貴しとす吾既に男ある事我治むる是二樂也人生れて
既に行年九十五是三樂也貧賤士あり者の常也死人
ある事を憂ひ修めざる當に何をか憂んや夫子
曰善哉自ら寛ふ
○聖人曰吾死なる乃後高八まの名日に無勝八子貢日ふ授ぶ

四一

曰ふ何ぞ言ふや聖人曰高八好ぐ己ふ賢
ある事を嘗賜ふ好ぐ己ふ如ざる者と處ある其ふ我
知ざんや文王武王ふ人を知ざんや其君我知ざんや其使ふ我
八其善ふ我知ざる者也我治めざんや文地を知ざんや
ふ其善人と居て芝蘭ふ室ふ入
ふ如し居ふ久ふして其香我同ふ化ふ
ず如し不善人と居ふ鮑魚ふ肆ふ入ふ如し
臭ふ亦ふ與ふ化ふ也ふ丹ふ藏ふ者ふ赤ふ漆ふ
藏ふ者ふ黒ふ是ふ以ふ君子ふ必ふ其倶ふ處ふ者ふ也

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4
ガラス使用

大聖孔子曰中人の情は俗あれば則ち侈り
儉なれば則ち溢る溢侈は亂の階なり
故を以て儉約の道を遵ひ儉約の教を
施すを以て先務と爲す
後漢の明帝の時天下新に定まり
人の由て生を樂む所以を知る
又曰く政を爲すの要は必ず
勝殘を除き殺を去るに在り
其人を教化して善に遷すに在り
相率ひて善を爲すに至らしむ
人心の淳漓は治亂の原なり
張敞を擢んで事物を
情也位高ければ危し重ければ
又曰く舟を水に行るは
沒を君を民は犯さざる
是故に君子は嚴ならざるべからず

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

○魯季桓子穿井得土缶中有羊焉使問於孔夫子曰吾費之禍也丘聞之木石之怪夔蝄蜽水之怪龍罔象土之怪羵羊

○吳王夫差敗王句踐於夫湫越王句踐乃以甲楯三千人棲於會稽山使大夫種厚幣以遊吳太宰嚭以事說之曰願委管籥屬國家以身隨之唯大王制之吳王將許之子胥曰不可不聽則越王收其民而去三年將復之吳其為沼乎王弗聽遂與越平

○孔夫子陳去魯之恵公聖人也舘於上舘三宿而陳侯之庭生棗陳侯之妻以其棗為夫人糗孔夫子曰丘聞之受人以德者懐人以財者困人以言者窮今受人棗而懐人以財困人以言窮丘不敢當也

○孔夫子自衛反魯修舊起廢門人稍進曰詩三百篇夫子皆絃歌之於是正雅頌各得其所上采殷下取魯二南為始為風始為雅為頌為頌為雅為風為風為雅為頌為頌為雅為風為風為雅為頌為頌為雅為風為風

る問ふ〳〵も聖人同集る事是一ツ肅慎氏
の矢也（肅慎ハ粟の国名也）昔武王商を克て道に九夷百蛮通ず各
其方物以て来貢せり是一ツ於て肅慎氏括矢楛
を石砮其長尺有咫と陳る楊る君り皆同よ命
して故府に求めしむるに果して貢の中に得る聖人の伯禽
の中に得る聖人の伯禽を以て礼拝して孔子路陳蔡の
間小忠陳蔡大夫相ひ謀て曰孔子は聖人なり其刺
譏する処皆諸侯の病中ん陳蔡是用ゐ
かゝるを以て徒奥之ヲ乏して孔夫子絶糧に
陥るに及ぶまで孔子路を召て問ふ曰詩云匪兕匪虎率彼曠野
吾道非ゑ耶ゑ吾何ぞ此ゑ為ゑ子路慍ゐ而色ゑ作ゑ対
曰君子ハ固ゑ不ゑ意ゑ者ニ夫子ゑ仁ゑぎる人の吾
を信ぜざる意ゑ者ゑ夫子ゑ智ゑぎる人の吾ゑ死
ざる也且由やもの夫子ゑ道ゑ弘ゑ而ゑ天下ゑ容ゑ
ざる也夫子ゑ道ゑ修ゑ而ゑ不ゑ善ゑ治ゑ天ゑ必ゑ報ずゑ福ゑ
報ぜゑ福ゑを以ゑ不ゑ善ゑ治ゑ天ゑ必ゑ報ずゑ禍ゑ

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4
ガラス使用

以て今夫子徳を積み義を懐ふを見て行ふ事久しく実ずか
ら困窮に及ぬや孔夫子曰由来の言を識ざるや吾汝に語
ら必信ぜらるゝ事あり必用らるゝ事あり君子は心有りし者
山小餓死せるに汝智弁を以て是を行ふ事久しく実ずか
きがごとし汝忠を尽し必報ひ隣郷和睦利せざる事を
汝諫を尽くせども聴ず伯夷叔斉首陽
と通ずるが如し賢不肖の弁も君子博く深く深
ず思ざるの甚しき何ぞ狗ん丘ごとき者や且芝蘭の
深林に生ずるを見るに今これを苦だ
ざるがごとくあるがごとくあるがごとく

倘免徳我ら孫周ふ
也生死命也是以晋文公重耳の覇心ある曹僖公
(晋文公也
曹国に困ら)
就王句践の覇心ある會稽山に困る
(昊の子孫
會稽山に困る)
故ふ
ひに指を屈ち死者を思ひ身を処して道
ばなきの志し廣く庸く
ふく告ずまでもなし夫子貢曰夫子の道至大なるの故よ
天下能受容る事なし夫子曰賜良農は能稼しくも能
の気位をすてゝ俗ふぜんにおちざるをいふ
ず稿を能く稼ハ種るを稿ハ禾入
穡をよく順を為るものなり

ガラス使用

良立ち姓功なる人の
事を従て細しくそれを紀すも亦た
容らの事能なく人らその道我俗ぐ
う端、亦た志厚からず思ふ事遠うく子貢、顔回入門
のち前の如く顔回曰夫子仰ぎ道至大にして天下能容
事好く然ども止ぐ夫子推こそれを以ぐ世の救を用ぐ
治者、関我有ぐ如く魂ぐ夫子仰ぐ病ぐ容らぬ
て然ぐ後君子の我之聖人欣然とぐ歎ぐて
曰是ある哉顔氏の子尓財多貧なるものか吾尚ぐ
富ぐ少ぐ
○子路聖人小間曰君子亦憂ぐの聖人曰なり君子の
行道備ら未ぐ受ぐ治ぐ憂ぐ如ぐ是ぐ以君子修ぐ
道ぐ以ぐ俟ぐ命ぐ
○顔子既ぐ聖人の教ぐ其志ぐ益ぐ堅ぐ仰ぐ之彌ぐ高
瞻ぐ之彌ぐ遠ぐ鑽ぐ之彌ぐ堅ぐ忽焉前ぐ在ぐ如ぐ
身ぐ憂ぐ有ぐ百ぐ楽ぐ忘ぐ憂ぐ終ぐ
○曾子敝衣ぐ耕ぐ魯君之ぐ招ぐ致ぐ
ず曾子固ぐ辞ぐ受ぐ却人曰子ぐ自ら求ぐ仕ぐ
君ぐ賜ぐ栄ぐ固辞ぐ何ぐ人の施ぐ

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4
ガラス使用

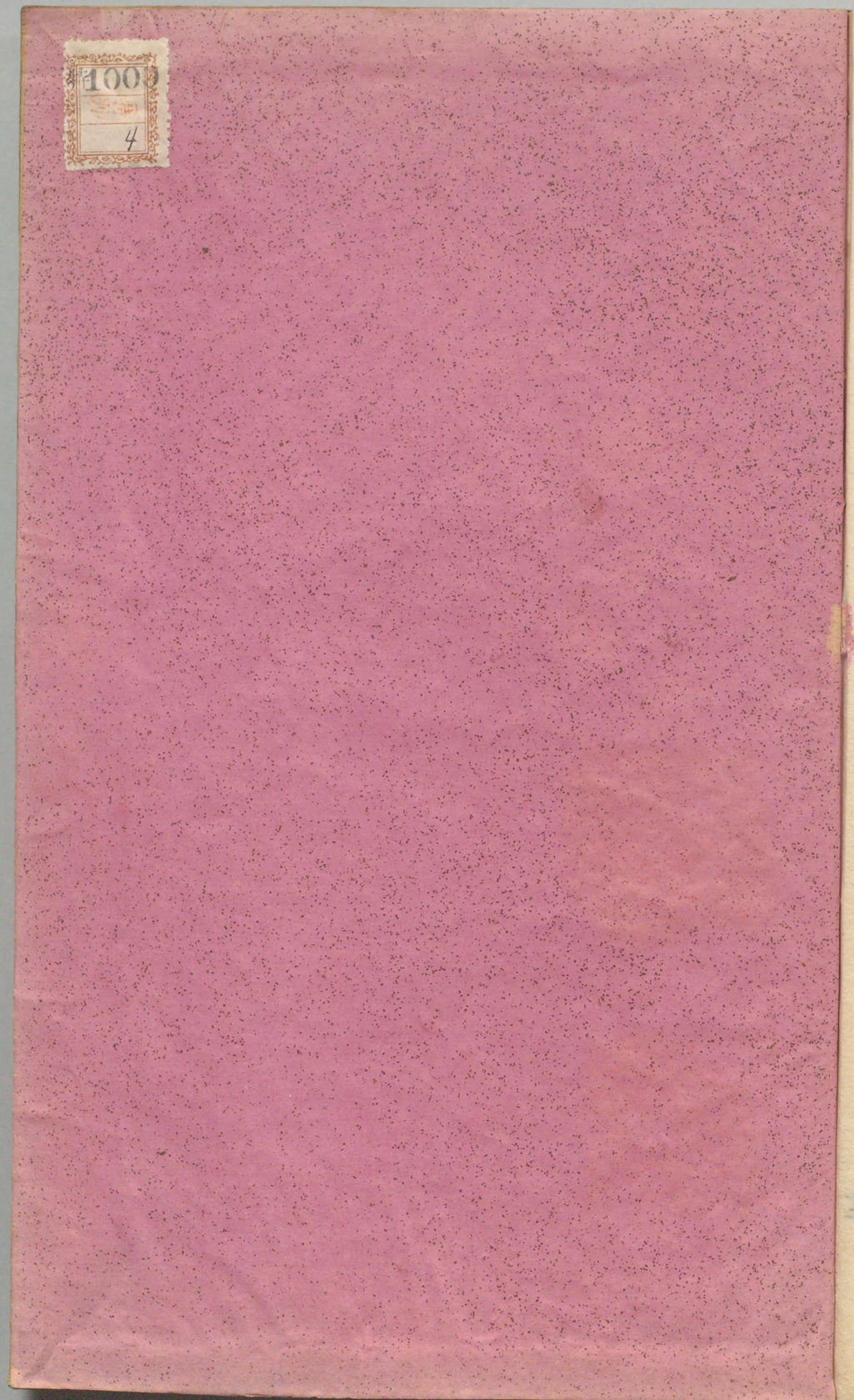
受ル者ヲ人ヲ畏ル人ヲ以テ人ヲ治ル繇シ
君賜ヲ以テ我小駟ヲ賜ヒ我ニ善ク馭ヲ教ヘ
ラモヤ孔夫子ノ術ヲ学ブノ多キヲ以テ言ヒ
タリ而シテ其ノ説ヲ詳ニセザル者ナリ

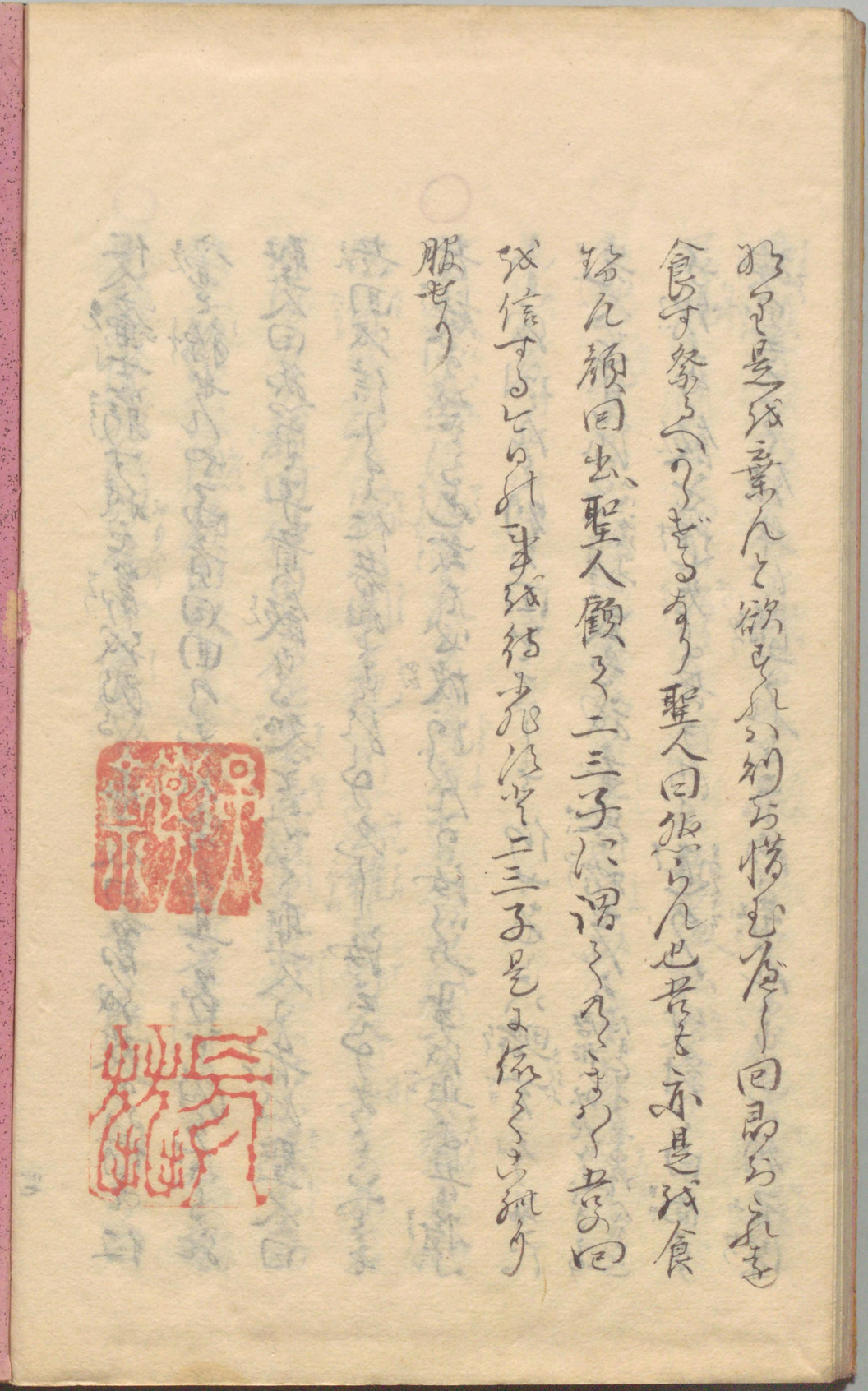
○聖人陳蔡ニ厄セラレシノ元況ヤ
漆貨ヲ以テ窮小圃ヲ貸ス出難ト野人ヲ告ヲ第一石
城偪リ顔回仲由ヲシテ壊屋ヲ以テ炊ク時ニ埃墨ヲ
飯中ニ墮顔回取リ是ヲ食ス子貢井ヨリ之ヲ望
○先ヲ悦ビ後ニ以テ後ヲ愁ヒ後ヲ憐ム聖人ノ用ヒ方ヲ曰

仁人窮士窮スル所ヲ節ニ改メズ何ヲ仁
窮ヲ称センヤ子貢曰ク敢テ問フ聖人曰ク
聖人曰ク子貢飯ヲ食ヒ水ヲ飲ミ肱ヲ曲ゲ
吾田疏信ヲ仁者知ラズ而シテ仁者ト為ス
吾疑ノ久シキ也敢テ必ズ放ヒ
重瞳先ト別ヲ画ヲ為シテ
先人ヲ見ル（先人ヲ聖人ノ誤カ）敢テ我ヲ
子恢ヲ飯ヲ進メヨ吾ヲ
埃墨ヲ伍中ニ墮ヲ
四七

国立国会図書館　文宣王略傳　特1000-4
ガラス使用

特1000
4





国立国会図書館　　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用

国立国会図書館　　文宣王略傳　特1000-4

ガラス使用